

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 7月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2275500524
法人名	アサヒサンククリーン株式会社
事業所名	アサヒサンククリーングループホーム吉田
所在地 (電話番号)	〒421-0304 静岡県榛原郡吉田町神戸2701-2 Tel 0548-33-3301

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成 20 年 6 月 10 日

【情報提供票より】(平成20年5月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 6 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~54,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	280 円	昼食 600 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20 年 5 月 9 日現在)

利用者人数	7 名	男性	名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		1 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 86.3 歳	最低	83 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榛原総合病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改造されたホームは、田園の中であって歌や会話あるいは笑い声が絶え間なく聞こえ、家族の匂いのする感じのよい雰囲気が醸し出されていた。「グループホームは団体生活ではなく、共同生活なので、日々生活を共にする中で、より本人が求めているその方の生活スタイルを実現できるように援助していきたい。」ことを、ホームの理念として「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」を管理者、職員それに利用者が渾然となって作りあげている。また、利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、ホーム自体が地域から孤立することなく、運営推進会議等を通じるなかで、地域の一員として地元の活動や住民との交流も積極的に行うよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の評価に取り組む姿勢がよく、前回評価での改善課題は職員参画のもとに改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価の意義を理解して改善に向けての取り組みが行われている。また、自己評価表も職員の意見を参考にしながら作成されている。自己評価・外部評価ともに、その結果をホームの改善に結び付けようと、職員全員での話し合いが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度定期的開催され、参加メンバーも運営推進会議の意義や役割を十分理解して、活発な意見や情報があり、これらが運営に反映されている。また、同会議において、訪問入浴や福祉用具・オムツ・パット等の展示、使用方法の実演等も行っているなど、会議を活かした取り組みがされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会での家族同士の集まりの中や家族の来訪時の面談において意見・要望・苦情を表す機会を設け、出された意見等は毎月の会議などにおいて職員間で話し合い改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会、老人会に加入し、各行事への参加、地域への還元活動としての「中学校の職場体験学習」「駆け込み110番」などを行っているほか、ホーム内で手作りしたお菓子を隣近所におすそ分けしたり、また、地域の人達から農作物の差し入れがあるなど、地元との交流も盛んに行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、地域の中でその人らしい生活ができるよう「何処よりも家庭的で、帰りたい場所」を提供することを主眼に、地域社会との共生を図るサービスを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも理念の実践に当たっての共通認識をもっており、利用者個々の生活スタイルに合わせたサービスが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入し、各行事への参加、地域への還元活動としての「中学校の職場体験学習」「駆け込み110番」などを行っているほか、ホーム内で手作りしたお菓子を隣近所におすそ分けしたり、また、地域の人達から農作物の差し入れがあるなど、地元との交流も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を理解して改善に向けての取り組みが行われている。また、自己評価票も職員の意見を参考にしながら作成されている。自己評価・外部評価ともに、その結果をホームの改善に結び付けようと、職員全員での話し合いが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催され、参加メンバーも運営推進会議の意義や役割を十分理解して、活発な意見や情報があり、これらが運営に反映されている。また、同会議において、訪問入浴や福祉用具・オムツ・パット等の展示、使用方法の実演等も行っているなど、会議を活かした取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは介護認定更新時など定期的に連絡連携を図り、行き来するような関係づくりを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時には、日課計画表などの個人記録をもとに、利用者の近況・健康状態、行事予定等を報告説明し、日常生活の中で異変があった際には、直ちに家族等へ報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での家族同士の集まりの中や家族の来訪時の面談において意見・要望・苦情を表す機会を設け、出された意見等は毎月の会議などにおいて職員間で話し合い改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率もよく、安定した運営がされているが、職員が止むを得ず離職する場合は、利用者や家族に不安を与えないよう十分に説明している。また、新しい職員とのラップ期間を設け、利用者への影響を防ぐことにも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修を年間それぞれ3～4回計画を立て勤務を差し繰りして参加できるよう柔軟に対処している。参加できなかった職員に対しては、月1度のカンファレンスを利用して研修内容を周知し共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織の同業者ネットワークに加入し、情報の入手に努めているが、地域での同業者との交流は、近隣に同業者もいないことから、研修会等で知り合った人達との間で相談ごとや意見交換を電話で行って、サービスの質の向上に役立たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等の面接を行ない、ホーム内の見学、一週間のお試し期間を設ける中で、本人の不安や求めていることなどを傾聴したり、サービス利用上の説明をして、ホームの生活に徐々に馴染む機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どんな行事でも利用者全員に声かけしたり、日々の生活の場においても、全員が何かしら参加できるものを工夫するなど、利用者職員が共に支えあう関係づくりが構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝礼時の予定から始まり、入居者の日々の様子や言葉から、本人の希望、意向を把握したり、推し量りして本人重視の対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者への職員の担当は決まっているが、毎月のケアカンファレンスでは全員で検討事項を相談し、ケアマネ等を通じて、家族とも相談できる機会を作り、全職員と家族とで本人にできる事を探してプランに入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行っているが、見直しは3ヶ月に1回行っている。突発的な変化への見直し対応は家族や関係者とも話し合い随時行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、あるいは要望に応じて通院介助を行っている。また、同場所の同一法人のデイサービスの送迎車でドライブ、ピクニック、その他合同行事の写真が壁面に飾られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を主体(家族同伴)としており、現在、利用者の大半が継続した医療を受けている。また、近隣の組合榛原総合病院を施設の協力医療機関とし、受診時の送迎は当事業所の職員がすべて付き添いをしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を向えた際の取り組みの重要性は認識しているが、利用者がいなかったため、その場合に備えた方針は決めておらず、現在検討中である。	○	まだ該当者がいない場合でも、そうした場合に備えて関係者での話し合いや連携体制づくりが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ、対応など個人の尊厳を第一義としている。個人情報に関する書類は、施錠された保管庫で管理されている。面会簿が個人別ではあるが、他人にも見れる一覧形式となっている。	○	一覧表の面会簿は、個人のプライバシーを損ねることも考えられるので、他の様式に変更されることが望まれる。
21	52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者のペースに合わせて、一緒に生活している。選択できるものは本人の好みに任せ、行動は利用者の自己決定に委ねている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時、食材の処理方法、味付け、配膳から片付けまで職員と共に行っており、食事も職員同席でにぎやかな楽しいものとなっている。		
23	57	○曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	檜風呂が設けられ、13時から20時までが入浴時間で、本人の入りたい時間は相談して決めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑で野菜を育てたり、カラオケで歌を唄ったり、体操をしたり、ドライブ、誕生会、花見や遠足等の季節行事など、本人のしたい事で楽しい日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はほぼ毎日行い、利用者全員に声をかけ、ペットの犬同伴で散歩している。近くのスーパーで買い物をしたり、100円ショップでは自分で買い物をするなど、戸外活動の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない事を基本としており、玄関やその他出入口には鈴やベルを設けて対処している。野良の草取りなど外部作業時は定期的に声かけ・居場所確認を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	5月に消防署に要請して避難訓練を実施し、動けない人の移動についても指導を受けている。また、年に一回、施設内の防火訓練を実施している。更に地域の方々の協力を得られるよう運営推進会議の場において懇請している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人別の日課計画表に食事量、水分摂取量を記録・保存し細心の注意を払っているが、日々の栄養バランスや摂取カロリーについて十分な把握をしていない。	○	栄養バランスやカロリー計算について、併設のデイサービスの栄養士等からの協力を得ることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は、オープンキッチンから職員が見渡せる間取りで、居間のテレビの前にはソファが置かれ、利用者がゆったりと寛げる空間となっている。玄関から食堂に繋がる廊下は広く、諸々の活動(趣味・工作)に利用され利便性に富んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には全て、収納庫とベッドが備えられ、他は全て利用者の馴染みの家具・調度品が置かれている。また、各居室とも綺麗に整理整頓されており、居心地よく過ごせる配慮がされている。		